

京都駅西部エリア活性化将来構想（案）の概要

I はじめに

1 構想策定の背景と目的

京都駅西部エリアは、京都の成長戦略を推進し、都市格を高めていくうえで大変重要な地域である。

《多彩な地域資源》

- 梅小路公園、京都市中央卸売市場第一市場（以下「京都中央市場」という。）、KRP、商店街、文化・観光施設、寺社、大学等。平成24年3月には京都水族館が開業、平成26年3月には「すざくゆめ広場」「市電ひろば」が開園
- 〔梅小路公園の来訪者数〈推計値〉：平成22年 約170万人（うち、市外からの来訪者は約18%）→平成26年 約360万人（うち、市外からの来訪者は約27%）〕

《新たな動き》

- 京都鉄道博物館が開業（平成28年春）
- 京都中央市場の施設整備及びそれに伴う「賑わいエリア」「有効活用地」の活用（平成31年度に水産棟、平成37年度に青果棟の整備が完了予定）
- 七条通付近におけるJR新駅の設置の推進

本将来構想を策定し、京都駅東部エリア等の周辺地域の活性化の動きと一体となって、京都全体の大きな飛躍につなげていく。

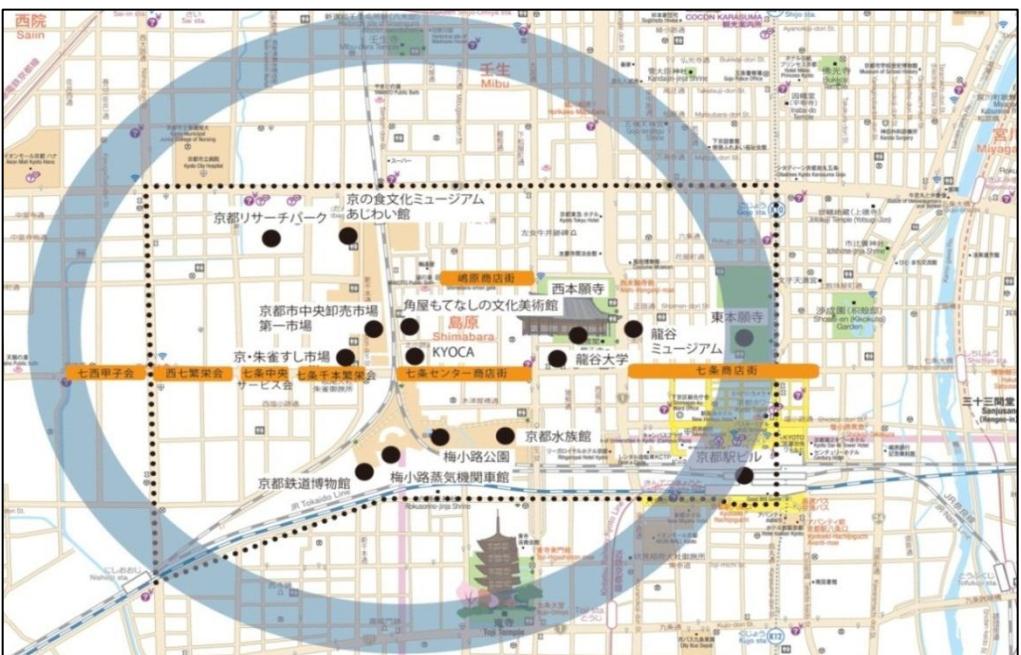
2 構想策定の基本事項

期間

- 将来ビジョン：長期的な見地に立ち設定
- 取り組むべき具体方策：概ね今後10年間（平成27年度～平成36年度）
特に、平成32年に東京五輪が開催され、海外からの来訪者もより一層増加すると見込まれることも見据えて、前半5年間（平成27年度～平成31年度）に強力に取り組むを推進する。

対象エリア

北は五条通、南はJR京都線、東は烏丸通、西は西大路通に囲まれたエリア（下図 点線で囲まれたエリア）を中心とし、その周辺にある「東寺」や「壬生寺」等までを含めたエリア（下図 青線で囲まれたエリア）を「京都駅西部エリア」と位置付け、対象エリアとした。



策定の考え方

すべての地域主体が将来ビジョンを共有し、民間活力と京都市の施策を融合させる。

上記の考え方のもと、以下の①～④の進め方に基づき、構想を策定し、本エリアの活性化に取り組む。

- ① これまで「課題」と考えてきたことを「ポテンシャル」として捉え直す。
- ② 個々の資源のポテンシャルをいかす、また、それら結びつけることによって新たな可能性を追求する。
- ③ 本エリアに限定するのではなく、常に他のエリアとの連携を図り、他のエリアへの波及効果を追求する。
- ④ 適切な時期に、具体的な指標により活性化の達成状況を検証して、取組を見直し、それを実行するというサイクルを確立する。

II エリアのポテンシャルと課題

居住	業務	集客
〔ポテンシャル〕 <ul style="list-style-type: none"> ○ 梅小路公園等、緑やうおい豊かな空間 ○ 商店街や病院等、充実した生活利便施設 	〔ポテンシャル〕 <ul style="list-style-type: none"> ○ 京都駅周辺への商業・業務機能の集積 ○ 産学公連携と新産業創出の拠点・KRP* ○ 京都の食文化を支える京都中央市場 	〔ポテンシャル〕 <ul style="list-style-type: none"> ○ 数多くの魅力的な歴史・文化資源（東・西本願寺、島原、龍谷ミュージアム等） ○ 新たな集客施設（京都水族館、京都鉄道博物館等） ○ 鉄道の聖地（様々な車両が行き交う光景等）
〔課題〕 <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化への対応、新たに転入してきた居住者との調和 ● 空き家等の活用、流通の促進（市内3位の空き家率） 	〔課題〕 <ul style="list-style-type: none"> ● KRPを核とした業務機能の強化 ● 京都中央市場を強みとした食の取組の推進 ● 商店街の活性化 	〔課題〕 <ul style="list-style-type: none"> ● 歴史・文化資源の保存・継承と魅力の再発見 ● 低・未利用地の活用の促進（公有地・民有地を問わず）

* 「KRP」… 京都リサーチパーク株式会社、京都市産業技術研究所、京都高度技術研究所等。約340社が入居し、1日約4,000人がオフィス・研究施設・会議室を利用している。

交通	地域連携
〔ポテンシャル〕 <ul style="list-style-type: none"> ○ 京都の玄関口であるJR京都駅 ○ 七条通付近におけるJR新駅設置の動き 	〔課題〕 <ul style="list-style-type: none"> ● 本エリアへのアクセスの向上（大きな回遊） — 特に、都心から梅小路公園まで ● エリア内の回遊性の向上（小さな回遊）
〔ポテンシャル〕 <ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な地域主体による活性化に向けた動き 	〔課題〕 <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な地域主体が連携して活性化に取り組む仕組みの構築

8つの方策

2つの仕組み

将来
ビジョン

活性化
イメージ

将来ビジョン

多彩な地域資源をつなげ、 京都の新しい賑わいを創出するまち

活性化イメージ 1

**全ての居住者が
安心して暮らし、
文化を楽しむまち**

- 緑や歴史・文化資源に触れ合える豊かなまちなか居住が進む。
- 空き家の活用等により、地域のまちづくり活動が活発になり、地域コミュニティが活性化される。

活性化イメージ 2

**新しい
ビジネス・活気を
生み出すまち**

- 京都中央市場直送の強みをいかし、食による賑わいが創出される。
- 地域に密着した商店街が活性化する。
- KRPを核とした新事業の創出が進む。
- 京都駅周辺への商業・業務機能の更なる集積（都市機能の集積）が進む。

活性化イメージ 3

**幅広い世代の
人々が多く集まり、
楽しめるまち**

- 京都鉄道博物館が開業（平成28年春）し、鉄道ファンをはじめ、各地から幅広い層の人々が訪れる。
- 京都中央市場整備に伴う「賑わいエリア」等の活用や、歴史・文化資源を訪れる層の拡大により、更なる賑わいが創出される。
- 梅小路公園が賑わいの一大拠点となる。

2つの
仕組み

仕組み

人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を実現する交通戦略

1

- 取組① 七条通付近におけるJR新駅の設置をはじめとした本エリアへのアクセスの向上《大きな回遊》
★ JR新駅設置の推進
- 取組② エリア内の回遊性の向上《小さな回遊》
★ 楽しく回遊できる歩行者環境の整備（ベンチやモニュメント等の仕掛けづくり）

仕組み

京都ならではの地域力・市民力をいかした「まちづくりの仕組み」の構築

2

- 取組③ 多様な地域主体の連携によるまちづくり ★ エリアマネジメント組織の設立

8つの
方策

方策 1

★ 空き家等の活用・流通の促進
緑やうるおいを感じられるまちなか居住の推進

方策 2

★ 公園の多様な活用による賑わいの創出
（夜間や冬期の集客につながるイベントの開催等）
梅小路公園の拠点機能の強化

方策 3

★ 「食」の流通拠点としての京都中央市場の機能強化
（平成31年度 水産棟完成、平成37年度 青果棟完成）
京都・日本の食文化の牽引

方策 4

★ 空き店舗の活用による新たな事業者の誘致
地域に密着した商店街の活性化

方策 5

★ 新たな事業の創出（ASTEMを拠点とした「ソーシャル・イノベーション・クラスタ構想」の推進）
KRPを核とした新事業・ソーシャルビジネスの創出

方策 6

★ 京都鉄道博物館の開業（平成28年春）
鉄道の聖地としての飛躍

方策 7

★ 京都中央市場整備に伴う「賑わいエリア」や「有効活用地区」の活用
新たな地域資源の創出と歴史・文化資源の継承

方策 8

★ 地域の特性に応じた施設の誘致
（駅周辺に都市機能を集積させるための都市計画の見直し）の検討
低・未利用地（公有地・民有地問わず）の戦略的活用の促進

★…主な推進項目

2 2つの仕組み

仕組み ①

人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を実現する交通戦略の推進

取組① 七条通付近におけるJR新駅の設置をはじめとした本エリアへのアクセスの向上(大きな回遊)

- 推進項目 1 JR新駅設置の推進
- 推進項目 2 バスによるアクセスの充実
- 推進項目 3 京都駅南口駅前広場の整備
- 推進項目 4 JR西大路駅のバリアフリー化

取組② エリア内の回遊性の向上(小さな回遊)

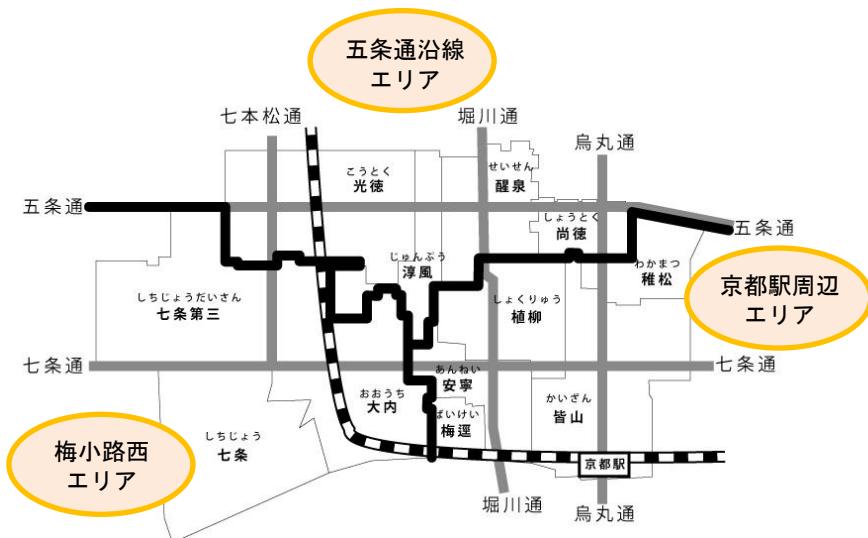
- 推進項目 1 楽しく回遊できる歩行者環境の整備
- 推進項目 2 自転車による回遊性の向上
- 推進項目 3 楽しみながら利用できる乗り物による回遊性の確保

仕組み ②

京都ならではの地域力・市民力をいかした「まちづくりの仕組み」の構築

取組③ 多様な地域主体の連携によるまちづくり

- 推進項目 1 市民のまちに対する愛着(シビック・プライド)の向上
- 推進項目 2 まちづくりを担う人材の確保・リーダーの育成
- 推進項目 3 エリアマネジメント組織の設立



3 8つの方策

方策 ①

緑やうるおいを感じられるまちなか居住の推進

- 推進項目 1 居住環境の向上
- 推進項目 2 空き家等の活用・流通の促進
- 推進項目 3 地域コミュニティの活性化
- 推進項目 4 地域課題の解決に向けた仕組みづくり

方策 ②

梅小路公園の拠点機能の強化

- 推進項目 1 緑豊かな憩いの空間としての利用
- 推進項目 2 公園の多様な活用による賑わいの創出
- 推進項目 3 総合案内所の機能強化
- 推進項目 4 利用者が快適で楽しく過ごすための施設整備
- 推進項目 5 広域的防災機能の維持・強化
- 推進項目 6 利用者ニーズの把握

方策 ③

京都・日本の食文化の牽引

- 推進項目 1 「食」の流通拠点としての京都中央市場の機能強化
- 推進項目 2 京都・日本の食文化の魅力発信
- 推進項目 3 「食」に関するイベントの開催

方策 ④

地域に密着した商店街の活性化

- 推進項目 1 地域住民の利用促進
- 推進項目 2 来訪者の呼び込み
- 推進項目 3 空き店舗の活用による新たな事業者の誘致
- 推進項目 4 商店街と賑わいエリア等の連携による地域経済循環モデルの構築
- 推進項目 5 商店街の雰囲気歩いて楽しめる歩行者空間の創出
- 推進項目 6 地域コミュニティへの貢献

方策 ⑤

KRPを核とした新事業・ソーシャルビジネスの創出

- 推進項目 1 KRPを中心とした産業クラスターの形成
- 推進項目 2 新たな事業の創出

方策 ⑥

鉄道の聖地としての飛躍

- 推進項目 1 京都鉄道博物館の開業
- 推進項目 2 市電の魅力の継承・発信
- 推進項目 3 鉄道に関する新たな魅力の創出
- 推進項目 4 幅広い層の来訪者のとり込み

方策 ⑦

新たな地域資源の創出と歴史・文化資源の継承

- 推進項目 1 京都中央市場整備に伴う「賑わいエリア」や「有効活用地」の活用
- 推進項目 2 歴史・文化資源の保存・継承
- 推進項目 3 歴史・文化資源の新たな魅力創出
- 推進項目 4 新たな資源の魅力発信・隠れた資源の掘り起こし
- 推進項目 5 点在する魅力のネットワーク化
- 推進項目 6 新たな来訪者の層の発掘
- 推進項目 7 情報発信ツールの多言語化の推進

方策 ⑧

低・未利用地(公有地・民有地問わず)の戦略的活用の促進

- 推進項目 1 地域の特性に応じた施設の誘致
- 推進項目 2 多様な活用方法の検討

IV 進捗管理

PDCAによる進捗管理

指標

- 指標 1** 「京都駅西部エリアの居住環境に満足する人の割合」
アンケート調査を行い、毎年着実に評価を向上させる。
- 指標 2** 「京都駅西部エリアの事業所数」
本エリアの事業所数の増加を目指す(平成24年:4,420事業所)。
- 指標 3** 「京都駅西部エリアを再び訪れたいと思う人の割合」(再来訪意向)
アンケート調査を行い、毎年着実に評価を向上させる。